

滋賀県文化振興関連事業における取組結果と課題

2 未来の文化の担い手の育成

重点施策3 子ども・若者が本物の文化に触れる機会の充実

重点施策3

① 子ども・若者向け公演・展示などの拡充

ア 県立文化ホールにおける青少年向け舞台芸術公演などの開催

イ 県立美術館・博物館における青少年向け文化・芸術体験プログラムの提供

ウ 幼児・家族向け公演・展示などの充実 ※重点9③ウに再掲

エ 若者向け広報の充実 ※重点6②キに再掲

オ 県立美術館・博物館における小中学生などの観覧料の優遇等による鑑賞の促進

※平成28年度から平成30年度まで

所属名	事業名	事業内容	事業の目的	3年間の取組を踏まえた取組結果 (数値) 記述	今後の課題・事業課題 対応等
文化芸術振興課	びわ湖ホール管理運営費	びわ湖ホールにおいて青少年向け舞台芸術公演を提供する。	①ーア	びわ湖ホールにおいて、U25、U30をはじめ、青少年向け料金を設定することにより、青少年が舞台芸術に親しむ機会を促進した。 ○平成28年度 青少年料金設定公演数 62公演 ○平成29年度 青少年料金設定公演数 54公演 ○平成30年度 青少年料金設定公演数 59公演	びわ湖ホールの自主公演については、多くの公演において青少年料金を設けているが、青少年の入場数は約4,000人（入場者全体に占める割合約9%）に留まっており、料金の設定だけでなく、併せて青少年の来場を促す取組が必要である。
文化芸術振興課	文施設管理運営費	文化産業交流会館において青少年向け舞台芸術公演を提供する。	①ーア	ニーズの掌握とプロモーター折衝等に努め、タイムリーかつエンタティメント性ある鑑賞系公演の事業展開を図った。	著名あるいはブレイク寸前のアーティストコンサート等契約には、複数の芸能事務所や興行プロモーターと対等かつ誠実な関係を維持するとともに、よりの確な青少年層のニーズ把握が不可欠である。 公正かつ適正な取引を堅持し、選定から契約に至るまで有利に折衝を進行する交渉能力も必要といえる。 この職務を承継する人材育成も必要と思われる。
文化財保護課	安土城考古博物館管理運営費	安土城考古博物館のテーマである城郭と考古を中心とした展示、普及啓発事業等をはじめとする施設の管理運営を指定管理者に委託し、実施する。	①ーイ	身近な歴史・文化財に親しむ機会を提供し、県内外の人に本県の歴史文化に対する理解を深める機会を提供することができた。 ○平成28年度 来館者43,710人 ○平成29年度 来館者38,970人 ○平成30年度 来館者33,838人	・開館から25年以上が経過し、大規模改修が必要な時期となっている。 ・基本的な展示内容が平成4年の開館以来変更されていないため、平成元年から平成20年にかけて実施された安土城の調査成果を反映した展示内容にリニューアルする必要がある。
文化芸術振興課	みんなで創る美術館プロジェクト事業	新たな美術館が地域や社会とつながりながら美の魅力を発信し、滋賀を元気にする「美の滋賀」の拠点としての役割を果たすことができるよう地域の施設や団体等との連携を深め、「新生美術館見本市（美の糸口アートにどぼん）」や「美術館－学校」連携授業プロジェクト、「たいけんびじゅつかん」、「アウトリーチ事業」、「出前トーク事業」等を実施する。	①ーイ	美術館と多くの県民、団体、地域とのつながりを深める取組を展開した。 ○平成28年度 ・県民フォーラム 1回 参加者320人 ・美術館整備に関する意見交換 4回 81人 ・リーフレット作成 2回刊行（3,000部、20,000部） ・「美の滋賀」拠点形成フェア 参加者 2,600人 ・「美の滋賀」探訪ツアー 8回 参加者200人 ○平成29年度 ・新生美術館整備推進専門家会議 2回 ・みんなで創る美術館円卓会議 1回 ・「美の滋賀」拠点形成フェア 参加者2,200人 ・学校出前授業プログラム 55回 参加者4,135人 ・地域出前プログラム 88回 参加者5,406人 ・たいけんびじゅつかん 10回 参加者740人 ○平成30年度 ・新生美術館整備推進専門家会議 1回 ・みんなで創る美術館円卓会議 1回 ・「美の滋賀」拠点形成フェア 参加者2,900人 ・学校出前授業プログラム 69回 参加者 4,516人 ・地域出前プログラム 98回 参加者 6,333人 ・たいけんびじゅつかん 14回 参加者 1,599人 ・月刊学芸員 10回 参加者 350人	・今後も、他団体等と協働し、「美の滋賀」の魅力を知っていただけるよう、取り組む必要がある。

文化 芸術 振興 課	びわ湖ホール管 理運営費	びわ湖ホールにおいて幼 児、家族向け公演を提 供する。	①ーウ	<p>びわ湖ホールにおいて、子ども、家族向け公演を実施することにより、子どもの頃から舞台芸術に親しむ機会を創出した。</p> <p>○平成28年度 子ども向け公演数 13公演 ○平成29年度 子ども向け公演数 4公演 ○平成30年度 子ども向け公演数 2公演</p>	<p>びわ湖ホールでは、「子どものための管弦楽教室」を継続して開催するほか、子ども向けバレエ・ダンス・演劇等に いて、子ども料金を設け上演している。直近3か年では、子ども料金を設定している公演は減少しているが、一方で18歳未満を対象としたシアターメイツ公演や、音楽祭の各公演等で18歳未満料金を設定することにより、青少年を含めた、より幅広い層に対し鑑賞機会の促進を図っているところである。</p>
文化 芸術 振興 課	文施設管理運 営費	文化産業交流会館にお いて幼児、家族向け公演 を提供する。	①ーウ	<p>事業計画の段階から、ファミリー向けの県民協働企画提案事業の組み入れや芝居小屋「長栄座」舞台上での展開など新たな工夫に努め、好評を得るとともに施設の周知や館の好感度（親近度）向上を図った。</p> <p>H28年度 ・赤ちゃんといっしょファミリーコンサート 鑑賞 503人 ・おかあさんと〜 ガラピゴ〜 2公演 鑑賞 3,208人 H29年度 ・赤ちゃんといっしょファミリーコンサート 鑑賞 439人 ・音楽の絵本(長栄座) 鑑賞 301人 H30年度 ・サントパテルアルガサ 2公演 鑑賞 1,240人</p>	<p>2千人近い収容人数のイベントホールでは、子どもたちに舞台公演の魅力を伝える催し物を上演するには、収容人数がやや多く、客席と舞台が視力が十分ではない幼児には遠すぎる。</p> <p>これまでの過去の入場実績から、家族で楽しめる企画を選定する際にはTV幼児番組での主婦層への知名度が集客の成否を分けることが、容易に推測できるがTV幼児番組の歌手とキャラクターショー以外で、2千人近い収容人数のイベントホールでも上演可能な家族向けの良質な催し物を見つけ出して県民に提供するように尽力していくべきと思われる。</p>
文化 芸術 振興 課	広報の取組	SNS（フェイスブック）などの活用により若者をターゲットとした広報を行う。	①ーエ	<p>アールブリュットネットワークメールマガジン発行回数 平成28年23回 平成29年31回 平成30年41回</p>	<p>情報の提供者の幅を広げることにより、多面的な角度から情報を発信していく必要がある。</p>
文化 芸術 振興 課	展覧会開催事業（企画展）	内外の優れた美術作品について、県民をはじめとする来館者に鑑賞機会を提供するため、観覧料の優遇により鑑賞を促進する。	①ーオ	<p>企画展の小中学生料金の設定、学校団体での鑑賞の観覧料免除等を行った。（平成29年度からの休館に伴い休止） ○H28年度観覧者数 36,828人（うち中学生以下3,446人）</p>	<p>令和3年度を予定している再開館以降、小中学生などの観覧料の優遇や、学校団体鑑賞の受け入れの充実、親子向けの関連プログラムの実施などを通じて、子どもが美術の魅力に出会う機会の拡充に努める。</p>
文化 芸術 振興 課	展覧会開催事業（常設展）	内外の優れた美術作品について、県民をはじめとする来館者に鑑賞機会を提供するため、観覧料の優遇により鑑賞を促進する。	①ーオ	<p>常設展の小中学生観覧料免除等を行った。（平成29年度からの休館に伴い休止） ○H28年度観覧者数 24,061人（うち中学生以下3,753人）</p>	<p>同上</p>
琵琶 湖博 物館	展示事業(企画展)	博物館で行っている研究の成果を基に、オリジナル性を重視した企画展示を開催する。	①ーオ	<p>研究成果を活かした企画展示を行った。</p> <p>○平成28年度「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」入場者数 38,664人 ○平成29年度「小さな淡水生物の素敵な旅」入場者数 49,128人 ○平成30年度「化石林－ねむる太古の森－」入場者数 42,918人</p>	<p>より魅力的な企画展示とするため、研究成果を基に、引き続き演出にも工夫を凝らした展示づくりを行い、集客力の向上を図る必要がある。</p> <p>体感型の展示やイメージキャラクターを用いた解説パネルを設置するなど、わかりやすく楽しめる展示づくりに努める。</p>
琵琶 湖博 物館	展示事業（常設展）	「湖と人」のよりよい共存関係をめざして、琵琶湖等の地学、歴史、環境、水族の展示を実施する。	①ーオ	<p>琵琶湖博物館のテーマ「湖と人間」に沿った展示を行い、琵琶湖とそこに暮らす生きもの、湖と人との関わりについて来館者の理解を深めることができた。また、これまでのリニューアルで、体感型・参加型展示や実物資料の展示、交流の場が増えたことにより、来館者の満足度を高めることができた。</p>	<p>県民のニーズに応えるため、情報を分かりやすく伝え、大人も子どもも楽しめる常設展示や交流空間を再構築するとともに、次代を担う人材を育成する機能を充実させたりリニューアルを図る必要がある。</p>
モノ づくり 振興課	陶芸の森事業	伝統文化であり、地場産業である信楽焼の産地に位置する陶芸の森において、観覧料の優遇等により、陶芸専門の展覧会や、国内外の陶芸家を対象とした滞在型創作研修「アーティスト・イン・レジデンス」、地元陶芸家が作品を販売する「セラミック・アート・マーケット」等の鑑賞等を促進する。	①ーオ	<p>中学生以下の観覧料を優遇して観賞を促進し、3年間で10,987人の観覧者数を得た。</p> <p><中学生以下の観覧者数> ○平成28年度 3,800人 ○平成29年度 3,691人 ○平成30年度 3,496人</p>	<p>引き続き、中学生以下の観覧料を優遇することで子どものころから本物に触れる体験を提供し、広く陶芸文化に親しんでもらえるよう観賞の促進を図る。</p>

安土城考古博物館	展覧会開催事業	小中学生などの観覧料の優遇等による鑑賞の促進する。	①ーオ	<p>多くの小中学生の受け入れ促進につながった。</p> <p>○平成28年度 小中学生来館者6,010人</p> <p>○平成29年度 小中学生来館者6,099人</p> <p>○平成30年度 小中学生来館者4,519人</p>	<p>・開館から25年以上が経過し、大規模改修が必要な時期となっている。</p> <p>・基本的な展示内容が平成4年の開館以来変更されていないため、25年以上にわたる安土城研究の成果を反映した展示内容にリニューアルする必要がある。</p>
----------	---------	---------------------------	-----	---	---

②地域における文化体験学習の充実

ア 放課後子ども教室や土曜日の教育支援事業の実施

イ 子ども向け体験プログラムの充実

ウ 地域活動における文化体験プログラムの提供

※平成28年度から平成30年度まで

所属名	事業名	事業内容	事業の目的	3年間の取組を踏まえた取組結果 (数値) 記述	今後の課題・事業課題 対応等
生涯学習課	学校・家庭・地域連携協力推進事業（放課後子ども教室・土曜日の教育支援事業）	市町が取り組む、放課後子ども教室や土曜日の教育支援事業を支援する。	②ーア	放課後子ども教室、土曜日の教室支援事業については、市町において、多様な学びや体験活動、文化活動を行うことのできる体制の構築が図られた。 放課後子ども教室 H28 5市町23教室 H29 6市町22教室 H30 7市町32教室 土曜日の教育支援事業 H28 4市町29教室 H29 4市町38教室 H30 4市町31教室	R2以降、国の補助要件に「コミュニティ・スクールを導入していること、または導入に向けた具体的な計画があること」「地域学校協働活動推進員を配置すること」の2つが設定される予定。補助事業実施の市町にあっては、この2つの要件を満たすことができるように働きかけるとともに、最終的には地域における独自実施を目指していけるような支援が必要である。
文化芸術振興課	文化振興推進事業（学校向けプログラム集作成）	学校向けに各県立施設等が実施する体験プログラムをまとめた冊子を作成する。	②ーイ	県内の学校や県立施設等に向けて広く配布することで、子どもたちが文化芸術に触れることのできる情報提供の機会の拡大を図った。 ○平成28年度 474箇所 ○平成29年度 470箇所 ○平成30年度 478箇所	これまでに作成した冊子のデータをホームページに掲載することにより、対象者の増加を図る。
子ども・青少年局	しがこども体験学校（体験プログラム）	滋賀の自然や地域資源を活かした多様な学びの場の充実を図るため、琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境や身近な社会環境をフィールドとして、「地域が学校、住民が先生」という考えのもと、自然・人・文化等に直接触れる「しがこども体験学校」の体験プログラムを充実し、様々な実体験とおして子どもの豊かな人間性や社会性を育む。	②ーイ	H28より情報発信の方法をホームページと周知チラシに変更したが、H30からホームページと事業一覧パンフレットに変更し改善を図った。 登録団体数 掲載事業数 H28 143団体 243事業 H29 146団体 259事業 H30 155団体 266事業	事業提供団体（NPO、民間等）によっては事業の継続が難しく、事業提供いただけないケースも出てきている。また子どもの体験活動の実施場所に地域差が大きく、今後地域差を少しでも縮小していけるよう、新規団体の獲得にも努めている。
琵琶湖博物館	環境学習センター事業	県民や各種団体などが行う環境学習や活動がよりよいものとなっていくのを応援するため、情報の提供、交流機会の提供、環境学習関連の各主体の連携等に取り組む環境学習センターを運営する。	②ーイ	ウェブサイトやメールマガジンで環境学習プログラム・講師などの情報提供を行うほか、環境学習推進員による相談や企画づくり、交流や発表の場づくりなどにより環境学習や活動を行う者を支援することで、県民の環境意識の高揚と環境保全活動の促進につながった。	環境学習を行う団体等への積極的な活動取材等を通してネットワークの拡大を図っていくなど、環境学習の担い手から求められる支援機能を一層充実させていく必要がある。
水産課	びわ湖のめぐみ魅力体感事業（びわ湖の食文化継承促進）	学校給食と連携し、県内の公立小学校等に通う児童を対象にびわ湖産魚介類を食材として提供。また、学校や親子活動、公民館活動などを対象に、琵琶湖の漁業や食文化を学べる職員による出前講座や漁業者による体験学習会を実施。	②ーイ	学校給食と連携し、県内の公立小学校等に通う児童を対象にびわ湖産魚介類を食材として提供した。 ○平成28年 121,869食 ○平成29年 115,063食 ○平成30年 119,959食 学校や親子活動、公民館活動などを対象に、琵琶湖の漁業や食文化を学べる職員による出前講座や漁業者による体験学習会を開催した。 ○平成28年 70回 ○平成29年 68回 ○平成30年 83回	学校給食への湖魚食材提供については、目標である90,000食を上回る食数を提供でき、また併せて実施している児童へのアンケート結果についても、「おいしかった・どちらかと言えばおいしかった」という意見が約8割を占めるなど、琵琶湖の魚介類の美味しさを実感できる機会を提供できたことから、今後も継続して実施することで食文化の継承を図る。 体験学習会についても、順調に実施できており、高い事業効果が期待できることから今後も継続的に実施する。

県立図書館	おはなし会の実施	子どもたちがものがたりや本に親しむ場として、絵本の読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター、素話などを行うおはなし会を実施する。	②ーイ	<p>月 1 回の開催により、子どもたちが本に親しむことのできる環境を定期的に提供することができた。</p> <p>○平成28年度 参加者数 344名</p> <p>○平成29年度 参加者数 399名</p> <p>○平成30年度 参加者数 241名</p>	より多くの利用者に参加してもらうために、子どもの年齢に合わせた作品選びや、開催曜日・時間の再検討などを行っていく必要がある。
モノづくり振興課	世界にひとつの宝物づくり事業（つちっこプログラム）	子どもや障がい者が、地元作家や地域ボランティア等との協働により、「土」という素材を用いて、ものを作ることの喜びや感動を体感することにより、心豊かな人材育成を目指す。	②ーウ	<p>地元作家や地域ボランティア等との協働により、つちっこプログラムを実施し、3 年間で34,538人の参加があった。</p> <p>＜つちっこプログラム参加者＞</p> <p>○平成28年度 11,517人</p> <p>○平成29年度 11,065人</p> <p>○平成30年度 11,956人</p>	引き続き、子ども会などに対しても「本物と出会うー総合的学習プログラムつちっこプログラム」を実施し、「土」という素材を用いて、ものを作ることの喜びや感動を体感する機会を提供する。

③学校教育における文化体験学習の充実

- ア 県内の全ての小学生などを対象とした本物の舞台芸術に触れる機会の提供
 イ 学校における文化施設、芸術家などの連携による文化・芸術体験学習の実施
 ウ 学校における地域の文化的資産などを活用した文化活動の促進
 エ 県内全ての小学生を対象とした滋賀の水、山、田に関わる文化体験学習の実施

※平成28年度から平成30年度まで

所属名	事業名	事業内容	事業の目的	3年間の取組を踏まえた取組結果 (数値) 記述	今後の課題・事業課題 対応等
文化芸術振興課	びわ湖ホール管理運営費（学校巡回公演）	びわ湖ホール声楽アンサンブルと指揮者、ピアニストが市町立小中学校を訪問して、音楽公演を実施する。	③ーア	びわ湖ホールのアウトリーチとして、びわ湖ホール声楽アンサンブル・メンバーが学校の体育館等でコンサートを行う「学校巡回公演」により、鑑賞機会を提供した。 ○平成28年度 学校巡回公演 10校10公演2,319人 ○平成29年度 学校巡回公演 10校10公演2,183人 ○平成30年度 学校巡回公演 10校10公演3,357人	県内の全児童が一度はびわ湖ホールに來場し、本物の舞台芸術に触れる機会を提供するため、「ホールの子」事業を実施しているが、時期が一定期間に限られることや、びわ湖ホールから遠方の小学校等においては参加しづらい現状も踏まえ、びわ湖ホール声楽アンサンブルの機動性を活かして、引き続き、アウトリーチとして、学校巡回公演等を実施していく。
文化芸術振興課	びわ湖ホール舞台芸術体験事業（「ホールの子」事業）	県内小学生等をびわ湖ホール大ホールに招き、オーケストラと声楽アンサンブルによる子ども向けの本格的な音楽会を実施する。	③ーア	学校等との連携により、県内全ての小学校などを対象とした本物の舞台芸術に触れる機会を提供し、平成28年度から平成30年度までの3年間に約25,000人の生徒が舞台芸術体験に参加した。 ○平成28年度 参加児童8,014人 ○平成29年度 参加児童8,194人 ○平成30年度 参加児童8,544人	遠方の学校における交通費負担や他の学校行事等との兼ね合いなどの理由により、児童生徒の参加は目標（新しい豊かさ創造・実感 滋賀プラン：14,000人）を下回った。H29年度より交通費補助を拡大したことを周知するとともに、学校への参加の呼びかけを早い時期に行い、各市町教育関係者に公演の視察を案内し理解を広げることなどによって、より一層の参加を促す。
文化芸術振興課	滋賀次世代文化芸術センター運営助成事業	文化施設・芸術家と学校等を結び、学校の授業で文化芸術体験を行うためのコーディネートや、それをサポートする文化ボランティアの育成等を行う「滋賀次世代文化芸術センター」に対して助成する。	③ーイ	学校において、文化施設や芸術家などと連携した授業を実施し、子どもたちに文化・芸術体験学習の機会を提供した。 ○平成28年度 210件 12,517人 ○平成29年度 187件 10,739人 ○平成30年度 197件 10,932人	文化芸術の提供者（文化施設や芸術家）と体験活動を希望する学校現場など、次世代文化芸術支援ネットワークのつなぎ役・中間支援機関として、これまで培ったスキルを用いた、より一層充実した取組の実施が必要となる。
文化芸術振興課	美ココロ・パートナーシップ事業	滋賀次世代文化芸術センターにおいて、通常学級に通えない子どもたちを対象に文化芸術体験プログラムを実施するとともに、若手芸術家を「美ココロ・パートナー」として育成する。	③ーイ	通常学級に通えない子どもたちを対象に文化施設や芸術家などと連携した授業を実施し、文化・芸術体験学習の機会を提供した。また、毎年3人の若手芸術家を育成し、合計17人となった。 ○平成28年度 20件 123人 ○平成29年度 24件 151人 ○平成30年度 20件 140人	教育現場における不登校問題は変わらず深刻な問題であり、この事業の需要は年々増えている一方、事業を実施する場所の地域格差が問題である。これまで育成した芸術家をを中心に、新たな人材・地域を巻き込みながら事業を実施する必要がある。
特別支援教育課	インクルーシブ・プログラム推進モデル事業	特別支援学校と小・中・高等学校が連携しながら、スポーツ活動や文化・芸術活動に取り組むインクルーシブ・プログラムにより、交流および共同学習を推進する。	③ーイ	インクルーシブ教育システムの構築に向けて、特別支援学校と小・中・高等学校が連携し、障害のある子どもとない子どもが共に障害者スポーツや文化・芸術活動を体験する「インクルーシブ・プログラム」により、交流及び共同学習を推進した。 ○平成28年度 参加児童生徒1,181人 ○平成29年度 参加児童生徒1,640人 ○平成30年度 参加児童生徒1,059人	特別支援学校の児童生徒と小中高等学校の児童生徒とのスポーツ交流だけでなく、文化芸術活動を通じた交流も進め、参加人数を増やしていく。また、障害者スポーツ大会や障害のある芸術家による音楽鑑賞会等に保護者や地域の参加を促すことで、障害者への理解を広めていく。
文化財保護課	校内・校外学習サポート	県内外の小中高校生・大学生・一般を対象とした安土城跡・観音寺城跡での現地校外学習授業のほか、各学校への出前授業、また各種団体からの要請による出前講座等で当課専門職員が講師を務める。	③ーウ	県内外に安土城や観音寺城など滋賀の戦国の魅力発信することができた。 ○平成28年度（21件） 参加者889人 ○平成29年度（26件） 参加者1,438人 ○平成30年度（19件） 参加者1,336人	滋賀の戦国の魅力を広く発信していくために、ひきつづき要請には積極的に対応していく。

生涯学習課	しが学校支援センター	地域の人々や企業・団体・NPOが提供する学校支援の事業を、学校の希望に応じて学校支援コーディネーターがコーディネートする。	③ーウ	豊富な知識や経験を持つ地域の人々や企業・団体・NPO等（支援者）と学校間のコーディネートを推進することができた。 ○学校支援ディレクターがコーディネートした学校数 平成28年度 81校 平成29年度 97校 平成30年度 98校	
幼小中教育課	うみのこ	学校教育の一環として、県内小学5年生を対象に、母なる湖・琵琶湖を舞台にして、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験型の教育を展開し、環境に主体的にかかわる力や自ら課題をもち協働して解決に取り組む力を培い、新しい時代を切り拓く力を育む。	③ーエ	昭和58年の就航以来、毎年県内全小学5年生を対象に実施。学校の参加率は100%である。 （各年度の乗船児童数、2日間の学習への満足度） 平成28年度13,306人 91% 平成29年度13,819人 94% 平成30年度13,739人 94% （満足度は、児童アンケートの結果による）	航海2日間と、学校での事前事後の学習がつながりのある探究的な学習活動となるよう、引き続き指導計画作成会議や学校訪問時に助言を行う。新船「うみのこ」における新しい教育プログラムの開発と啓発方法を協議する「湖の子」新体験学習プログラム作成プロジェクトチームを組織し、研究を進めていく。
森林政策課	やまのこ	森林への理解と関心を深めるとともに、次代を担う子どもたちの人と豊かにかかわる力を育むため、学校教育の一環として、小学4年生を対象に森林体験学習を実施。	③ーエ	各市町教育委員会や各受入施設と連携し、森に親しむ活動、森づくり体験活動、森の恵み利用学習、森のレクチャーを通じた森林環境学習を実施した。平成28年度から平成30年度までの3年間に約40,000人の児童が参加した。参加した児童の9割以上の児童が、森林のはたらきや、大切さを「知ることができた」もしくは「だいたい知ることができた」と回答し、充実した体験活動ができている。 ○平成28年度 235校13,964人 ○平成29年度 230校13,341人 ○平成30年度 225校13,383人	受入施設の体制が一時変動し不参加校が生じたが、施設の新設や県教育委員会との連携の結果、令和2年度は全ての小学校が参加予定となった。指導方法の向上が課題であり、児童が自らできることを考え、行動に移せるような指導方法を検討する必要がある。
食のブランド推進課	たんぼのこ	子どもたちが農業体験を通じて、農業への関心を高め、生命や食べ物の大切さを学ぶ「農からの食育」を推進するため、小学生自らが田んぼや畑に入り農産物を「育て」、「収穫し」、「食べる」という一貫した体験学習の取組を支援する。	③ーエ	農業体験を通じて農業への関心を高め、生命や食べ物大切さを学ぶ「農からの食育」を推進するため、農産物を「育て」、「収穫し」、そして「食べる」という一貫した体験学習の取組を県内約9割の小学校で実施した。 ○平成28年度 実施校 203校 ○平成29年度 実施校 199校 ○平成30年度 実施校 200校	子どもたちが学んだ内容を活用し、学校生活や地域の中で実践できるような指導を進めていくことが必要である。
モノづくり振興課	世界にひとつの宝物づくり事業（つちっこプログラム）	子どもや障がい者が、地元作家や地域ボランティア等との協働により、「土」という素材を用いて、ものを作ることの喜びや感動を体感することにより、心豊かな人材育成を目指す。	③ーエ	地元作家や地域ボランティア等との協働により、つちっこプログラムを実施し、3年間で34,538人の参加があった。 ＜つちっこプログラム参加者＞ ○平成28年度 11,517人 ○平成29年度 11,065人 ○平成30年度 11,956人	引き続き、子ども会などに対しても「本物と出会うー総合的学習プログラムつちっこプログラム」を実施し、「土」という素材を用いて、ものを作ることの喜びや感動を体感する機会を提供する。

④教員を対象とした文化研修機会の充実

ア 文化・芸術を体験する教員向け研修機会の提供 ※重点5 ③アに再掲

※平成28年度から平成30年度まで

所属名	事業名	事業内容	事業の目的	3年間の取組を踏まえた取組結果 (数値) 記述	今後の課題・事業課題 対応等
琵琶湖博物館	交流・サービス事業	自主的・主体的に博物館活動へ参加する「はしかけ制度」「フィールドレポーター制度」の支援、体験学習プログラムの実施や講演会・観察会の開催、教員研修の取組など地域や学校などと協働事業を実施する。	④ーア	外部からの講座・観察会などの依頼の窓口を原則として一本化し、依頼者とよく相談をすることにより、依頼者のニーズを明確化してより的確に対応することができるようになった。 観察会・見学会は外部団体との共催が多く、地域の多様な主体との連携を進めることができた。	はしかけ・フィールドレポーターの活動が多様化してきているため、どのような活動の可能性があるかについて、博物館と登録者との対話によって検討していく必要がある。

滋賀県文化振興関連事業における取組結果と課題

2 未来の文化の担い手の育成

重点施策 4 若手芸術家等の育成・支援

重点施策 4

①若者の文化活動の促進

ア 滋賀県高等学校総合文化祭などの開催

イ 高等学校、特別支援学校の文化部活動の活性化に向けた取組

ウ 若手芸術家などを対象としたフェスティバルなどの開催 ※重点 6 ②アに再掲

エ 若者の文化活動の場としての県立文化施設の利用促進 ※重点 6 ②オに再掲

オ 芸術系専門学科を有する高校・大学と県立文化施設との連携

カ 文化施設以外で、文化・芸術活動ができる場の情報収集および提供 ※重点 6 ①イ、9 ②アに再掲

キ 若者を含め多くの県民が参加できる滋賀県芸術文化祭の開催 ※重点 6 ①オ、6 ②カに再掲

※平成28年度から平成30年度まで

所属名	事業名	事業内容	事業の目的	3年間の取組を踏まえた取組結果 (数値) 記述	今後の課題・事業課題 対応等
高校 教育 課	高等学校文化祭事業	滋賀県高等学校文化連盟に対して補助を行い、文化部活動をさらに充実させ、芸術文化活動の振興・普及を図る。	①ーア ①ーイ	<p>滋賀県高等学校総合文化祭を毎年開催するなど、文化部活動をさらに充実させ、芸術文化活動の振興・普及を図る機会を提供することができた。</p> <p>○平成28年度 滋賀県高等学校総合文化祭 参加生徒数 延べ4,564人</p> <p>○平成29年度 滋賀県高等学校総合文化祭 参加生徒数 延べ5,398人</p> <p>○平成30年度 滋賀県高等学校総合文化祭 参加生徒数 延べ5,761人</p>	令和3年度に開催される近畿高等学校総合文化祭 滋賀県大会に向けて、滋賀県高等学校文化連盟と連携を強化しながら、文化部の活動の活性化の取組を推進する。
高校 教育 課	高等学校等文化芸術活動ジャンプアッププロジェクト	第39回全国高等学校総合文化祭の開催により活発化した文化部活動の更なる発展に向け、次世代の文化芸術の担い手となる若手芸術家の育成や拠点校・伝統校の育成に向けた取組、新設部会や指導者がいない学校への支援、特別支援学校の文化活動の充実を図る。	①ーイ	<p>専門家による指導等により、文化部活動の活性化を図ることができた。</p> <p>○次世代の文化芸術の担い手の育成に向けた取り組みとして、演劇・合唱・日本音楽・美術工芸・写真部門において専門家による集中指導を実施することができた。</p> <p>・平成28年度 実施回数 延べ30回 参加生徒数 延べ1400人</p> <p>・平成29年度 実施回数 延べ26回 参加生徒数 延べ830人</p> <p>・平成30年度 実施回数 延べ24回 参加生徒数 延べ688人</p> <p>○拠点校・伝統校の育成に向けた取組として、吹奏楽（3校）・囲碁（1校）・将棋部門（1校）が専門の指導者を招き、生徒にさらに高いレベルの技術・技能を習得させる取組を実施することができた。</p> <p>・平成28年度 実施回数 延べ27回 彦根東高等学校囲碁部が全国高等学校総合文化祭に出場</p> <p>・平成29年度 実施回数 延べ31回 河瀬高等学校吹奏楽部、彦根東高等学校囲碁部が全国高等学校総合文化祭に出場</p> <p>・平成30年度 実施回数 延べ27回 甲西高等学校吹奏楽部、彦根東高等学校囲碁部が全国高等学校総合文化祭に出場</p> <p>○びわこ総文開催のために新設した部会や指導者がいない文化部を持つ学校へ指導者を派遣する取組を実施することができた。</p> <p>・平成28年度 派遣校数 16校</p> <p>・平成29年度 派遣校数 19校</p> <p>・平成30年度 派遣校数 7校</p> <p>○特別支援学校の文化活動の充実と発展のため「滋賀県特別支援学校文化的行事みなフェスタ」を開催することができた。</p> <p>・平成28年度 参加人数 延べ500人</p> <p>・平成29年度 参加人数 延べ350人</p> <p>・平成30年度 参加人数 300人</p>	<p>・びわこ総文開催の取組過程で獲得した成果を引き継ぎ、活発化した高等学校文化部活動のさらなる発展のため、次世代の文化芸術の担い手の育成、文化芸術の拠点校・伝統校の育成などに努めていく必要がある。</p> <p>・「高等学校等文化芸術活動ジャンプアッププロジェクト」は終了するが、これを継承した「『広げよう創造の翼』文化部活動活性化プロジェクト」、「部活動指導員配置促進事業」を新たにを行い、令和3年度に開催される近畿高等学校総合文化祭に向けて、文化部活動をさらに活性化させていく必要がある。</p>
文化 芸術 振興 課	東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム推進事業	東京オリンピック・パラリンピックに向けて若手芸術家の発表の機会を提供するとともに、国内外で活躍する芸術家の指導等により、滋賀の文化を担う若手を育成する。また、学校等と連携したワークショップや国際色豊かな音楽会を開催し、文化プログラム発信の気運を醸成する。	①ーウ	<p>多くのアーティストや団体の出演や協力を得て、つながりを形成することができ、若手芸術家の発表の機会と芸術に触れる機会を提供することができた。</p> <p>○平成28年度 来場者 4,520人</p> <p>○平成29年度 来場者 約5,000人</p> <p>○平成30年度 来場者 約4,800人</p>	取組を一過性の盛り上げで終わらせず、様々な団体との連携を強化して滋賀ならではの豊かで魅力ある文化を再発見し、また県外に対しても発信する取組を引き続き展開する必要がある。

モノづくり振興課	陶芸の森事業	伝統文化であり、地場産業である信楽焼の産地に位置する陶芸の森において、陶芸専門の展覧会や、国内外の陶芸家を対象とした滞在型創作研修「アーティスト・イン・レジデンス」、地元陶芸家が作品を販売する「セラミック・アート・マーケット」等の事業を実施する。	①ーエ	若者の観覧料を優遇して観賞を促進し、3年間で764人の観覧者数を得た。 ＜高校・大学生の観覧者数＞ ○平成28年度 211人 ○平成29年度 267人 ○平成30年度 286人	引き続き、若者の観覧料を優遇し、本物に触れる体験を提供して、広く陶芸文化に親しんでもらえるよう観賞の促進を図る。
モノづくり振興課	陶芸の森事業	伝統文化であり、地場産業である信楽焼の産地に位置する陶芸の森において、陶芸専門の展覧会や、国内外の陶芸家を対象とした滞在型創作研修「アーティスト・イン・レジデンス」、地元陶芸家が作品を販売する「セラミック・アート・マーケット」等の事業を実施する。	①ーオ	人材育成事業として、信楽高等学校の生徒を対象にデザイン研修や、登り窯焼成実習などの支援事業を行った。 ＜信楽高校への支援事業＞ ○平成28年度 5回 213人 ○平成29年度 5回 196人 ○平成30年度 5回 215人	引き続き、信楽焼の伝統技術を継承するための人材育成として、信楽高等学校への支援を行う。
文化芸術振興課	県内文化情報提供事業	県域レベルの各ジャンルの文化芸術活動を網羅した総合的な情報冊子「れいかる」を発行するほか、県の歴史や自然、芸術などを幅広く紹介する湖国の総合文化誌「湖国と文化」を県内外に配布し滋賀の多様な文化を紹介する。	①ーカ	○平成28年度 「れいかる」発行部数：40,000部(年6回発行、1回あたり)、配布先：495カ所、「湖国と文化」配布部数：430部、(年4回発行、1回あたり) ○平成29年度 「れいかる」発行部数：40,000部(年6回発行、1回あたり)、配布先：499カ所、「湖国と文化」配布部数：430部(年4回発行、1回あたり) ○平成30年度 「れいかる」発行部数：40,000部(年6回発行、1回あたり)、配布先：495カ所、「湖国と文化」配布部数：430部(年4回発行、1回あたり)	令和元年度は、配布先の件数を大幅に減らすことなく、1カ所での配置部数を減らすことで発行部数を1回あたり30,000部とし、また、「湖国と文化」での県からの文化記事を縮小、全体経費の圧縮を図った。印刷費等の高騰により今後執行には工夫が必要だが、県内の文化事業をまとめた唯一の情報紙として、県民からのニーズも高い。
国際課	外国人アーティスト絵画展	【公益財団法人 滋賀県国際協会 事業】 県内に住む外国人アーティストによる絵画展をピアザ淡海ロビーで開催する。	①ーカ	滋賀県内に住む外国人アーティストの文化芸術作品に触れる機会を提供することにより、県民の文化芸術に対する感性を育むと共に、多様で豊かな多文化共生社会を実感してもらうことができた。 ●平成28年度展示作品数 20点 ●平成29年度展示作品数 20点 ●平成30年度展示作品数 30点	
生涯学習課	学習情報提供システム整備事業	県民の主体的な生涯学習を支援するため、講座等の学習機会の情報提供をはじめ、様々な生涯学習に関する情報を提供することを目的とする。	①ーカ	県民の主体的な生涯学習を支援するため、各主体が実施する講座や教室等の学習情報を一元化し、県民へ情報提供を行うことができた。 平成28年：2,380件 平成29年：2,208件 平成30年：2,322件	講座登録数は継続的に目標値を上回るなど、県内の生涯学習の機会は一定充実してきている状況を踏まえ、次の段階として、活力ある地域づくりのために学びの成果を生かしていく取組を一層普及していく必要がある。

文化 芸術 振興 課	滋賀県芸術文 化祭開催事業	県民の意欲的な創作活 動の発表の場を提供し、 文化芸術に親しむ機会と するため、美術展覧会等 を開催するとともに、文化 団体等との連携による オープニング事業を実施す る。	①ーキ	<p>美術展覧会、写真展覧会、文学祭を開催し、県民の意欲的 な創作活動の発表の場を提供し、文化芸術に親しむ機会とす ることができた。</p> <p>●平成28年度 美術展覧会出品数 551点（うち30歳未満 70点） 写真展覧会出品数 584点（うち30歳未満 1点） 文学祭出品数 854点（うち30歳未満 5点）</p> <p>●平成29年度 美術展覧会出品数 486点（うち30歳未満 37点） 写真展覧会出品数 526点（うち30歳未満 1点） 文学祭出品数 792点（うち30歳未満 5点）</p> <p>●平成30年度 美術展覧会出品数 471点（うち30歳未満 71点） 写真展覧会出品数 486点（うち30歳未満 2点） 文学祭出品数 736点（うち30歳未満 19点） また、文化団体等との連携によるオープニング事業を実施し た。</p> <p>平成28年度参加者：729人 平成29年度参加者：734人 平成30年度参加者：520人</p>	<p>近代美術館の休館に伴い、会場が変更になったことによ り、出品者は一定数減少したものの、芸術文化祭主催 事業（美術展覧会、写真展覧会、文学祭）における 若者の出品数は少しずつ増加傾向にある。今後も周知 活動等を通じて、若者の出品や芸術文化祭への参加 を促す必要がある。</p> <p>芸術文化祭オープニング事業は、平成30年度は文化 団体の協働によりワークショップ等の催しを開催。今後 も、文化団体と協働しながらイベントを盛り上げていく必 要がある。</p>
---------------------	------------------	---	-----	--	---

- ②若手芸術家、伝統文化伝承者などの育成・支援
 ア 県立文化施設における若手芸術家の育成
 イ 若手芸術家の活動支援 ※重点 6 ②イに再掲
 ウ 地域で伝承されてきた技術の保存・継承・発信への支援 ※重点 6 ①ウに再掲
 エ 滋賀ならではの伝統文化の継承（再掲）

※平成28年度から平成30年度まで

所属名	事業名	事業内容	事業の目的	3年間の取組を踏まえた取組結果 (数値) 記述	今後の課題・事業課題 対応等
文化芸術振興課	びわ湖ホール管理運営費	びわ湖ホールにおいて若手芸術家を育成する取組を実施する。	②ーア	<p>びわ湖ホールにおいて、ホール専属の声楽アンサンブルを運営することを通じ、若手声楽家の育成を図ったほか、オペラの若手指揮者を養成に資するするため「指揮者セミナー」を行った。</p> <p>○平成28年度 びわ湖ホール声楽アンサンブル 16人 指揮者セミナー受講生 5人</p> <p>○平成29年度 びわ湖ホール声楽アンサンブル 14人 指揮者セミナー受講生 5人</p> <p>○平成30年度 びわ湖ホール声楽アンサンブル 14人 指揮者セミナー受講生 4人</p>	<p>びわ湖ホール声楽アンサンブルについては、最長5年の任期となっており、卒団後もソロ登録メンバーとして依頼公演等への出演の機会を与えている。ソロ登録メンバー数も60名を超えるまでになっており、引き続き、びわ湖ホールの舞台芸術を担う人材として活用していく。</p> <p>また、今後、人材の不足が懸念されるオペラ指揮者についても、引き続き若手指揮者を対象としたセミナーを開催することにより、その確保を図っていく。</p>
文化芸術振興課	文施設管理運営費	文化産業交流会館において若手芸術家を育成する取組を実施する。	②ーア	<p>県の指定管理料に加え文化庁補助金を得ながら「邦楽・邦舞演奏家養成事業」を展開、伝統芸能分野の若手芸術家育成に努めた。</p> <p>何れの年度・分野においても著名な指導者を招き、概ね9月～翌年2月にかけて定期的な稽古を実施、また芝居小屋「長栄座」事業の一翼にその成果発表の場を設け、鑑賞者からも好評を得た。</p> <p>H28年度 鑑賞者 260名 H29年度 鑑賞者 358名 H30年度 鑑賞者 367名</p>	<p>①専門実演家養成事業の参加者のうち半数が同じ流派に所属しており、他の流派の参加者を増加させることでバランスの取れた構成にしていける必要がある。</p> <p>②受講生において邦楽や箏曲コンクールなどに挑戦する人材が少ないが、プロのアーティストを目標に掲げてレベルアップを図る必要がある。</p> <p>③30代までの若手演奏家のニーズに合った稽古日数の設定や内容を検討し参加しやすい環境整備を行う必要がある。</p> <p>④邦楽専門集団「しゅはり」の演奏水準を向上させることが、邦楽活性化の目標に繋がると思われる。</p>
モノづくり振興課	陶芸の森事業	伝統文化であり、地場産業である信楽焼の産地に位置する陶芸の森において、陶芸専門の展覧会や、国内外の陶芸家を対象とした滞在型創作研修「アーティスト・イン・レジデンス」、地元陶芸家が作品を販売する「セラミック・アート・マーケット」等の事業を実施する。	②ーア	<p>国内外の芸術家を対象とした滞在型創作研修「アーティスト・イン・レジデンス」を実施し、平成30年度末現在、53か国、1,273人の陶芸家、美術家らを受け入れた。</p> <p>＜アーティスト受入人数＞</p> <p>○平成28年度 64人 ○平成29年度 58人 ○平成30年度 67人</p>	<p>引き続き、アーティスト・イン・レジデンスを実施し、特に日本の比較若く30代、40代の陶芸作家等を受け入れ、現代陶芸の次世代へのバトンタッチをフォローしていく。</p>
文化芸術振興課	東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム推進事業	東京オリンピック・パラリンピックに向けて若手芸術家の発表の機会を提供するとともに、国内外で活躍する芸術家の指導等により、滋賀の文化を担う若手を育成する。また、学校等と連携したワークショップや国際色豊かな音楽会を開催し、文化プログラム発信の気運を醸成する。	②ーイ	<p>多くのアーティストや団体の出演や協力を得て、つながりを形成することができ、若手芸術家の発表の機会と芸術に触れる機会を提供することができた。</p> <p>○平成28年度 来場者 4,520人 ○平成29年度 来場者 約5,000人 ○平成30年度 来場者 約4,800人</p>	<p>取組を一過性の盛り上げで終わらせず、様々な団体との連携を強化して滋賀ならではの豊かで魅力ある文化を再発見し、また県外に対しても発信する取組を引き続き展開する必要がある。</p>
モノづくり振興課	滋賀の地域産業成長戦略支援事業	本県の優れた地域資源である地場産業等の「稼ぐ力」を高め、地方創生の核となる新たな成長産業として育成するため施策推進協議会の運営を行うとともに、時代の変化に適合する新たな取組を総合的、継続的に支援する。	②ーウ	<p>外部委員を含めた施策推進協議会の運営・開催した。また、地場産業および地域特産品の振興やブランド力向上のために、各組合が実施する販路開拓、後継者育成、新商品開発などの戦略的な取組に対して補助を行った。</p> <p>【新商品開発等ブランド強化に取り組んだ組合数】</p> <p>○平成29年度 15組合 ○平成30年度 16組合</p>	<p>・各組合が希望する補助内容は多岐にわたることから、組合だけではなく事業者の要望に直接対応できる支援を行う必要がある。</p> <p>・より効果的に実施できるよう、内容や発信方法について常に検討を続ける必要がある。</p> <p>・継続的、定期的実施することが認知度およびブランド力向上には重要である。</p>

観光振興局	江州音頭普及事業	本県の代表的な郷土芸能である江州音頭を広く県内外に普及し、本県のイメージアップを図る。	②ーエ	<p>本県の郷土芸能である江州音頭の普及を図るため、江州音頭フェスタを開催し、多くの方に披露できた。</p> <p>平成28年度 約500人 モリーセントラルコート</p> <p>平成29年度 約500人 近江神宮</p> <p>平成30年度 約450人 甲賀市碧水ホール</p>	フェスタを一過性の盛り上げで終わらず、普及会加盟団体との連携を強化して、引き続き広く普及を図る必要がある。
観光振興局	観光イベント推進事業 (近江のまつり育成費補助金)	文化的観光資源として名高いと長い歴史に培われた、「観光滋賀」を代表するにふさわしいと認められるまつりに対して補助を行うことにより、本県の観光振興の促進、およびイメージアップを図る。	②ーエ	<p>文化的観光資源として名高い評価を得ているまつりに対して、開催に要する経費の一部を助成した。</p> <p>■対象事業（観客数）</p> <p>○平成28年度 大津祭（約18万人）、長浜曳山祭（約6万人）、山王祭（約11万人）、近江八幡の火祭り（約10.2万人）</p> <p>○平成29年度 大津祭（約17.3万人）、長浜曳山祭（約7万人）、山王祭（約11万人）、近江八幡の火祭り（約9.7万人）</p> <p>○平成30年度 大津祭（約16万人）、長浜曳山祭（約5万人）、山王祭（約12万人）、近江八幡の火祭り（約9.3万人）</p> <p>■補助金額 6,000,000円（各主催団体：1,500,000円 × 4団体）</p>	助成を通じて、引き続き、本県の観光振興の促進およびイメージアップを図る。
文化財保護課	滋賀のまつり継承支援モデル事業	祭礼行事の保存継承が困難となる地域も出てきており、県指定、県選択等の民俗芸能や祭礼行事の保存継承をはかっていくため、あらたな支援の仕組みを検討し試行する。	②ーエ	<p>保護団体の意識調査を実施し、県内における民俗芸能や祭礼行事保存継承にかかる課題を把握することができた。保護団体と県民が交流する現地探訪会や研修会を開催し、祭りが持つ魅力や地域力を相互に発見・理解する機会を提供することができた。※事業期間：H28のみ</p> <p>○保存継承に関する意識調査の実施 99団体から回答</p> <p>○現地探訪会・研修会参加者 101人</p>	伝承意欲が高いものの80%の保護団体が将来に不安を抱え、伝承していく手立てがわからない状況であることが明らかとなったため、引き続き県内各地域が情報交換を行う機会を提供していく必要がある。

③顕彰制度の充実

ア 若者を対象とした顕彰

※平成28年度から平成30年度まで

所属名	事業名	事業内容	事業の目的	3年間の取組を踏まえた取組結果 (数値) 記述	今後の課題・事業課題 対応等
文化芸術振興課	文化功労者顕彰事業	大会などで顕著な成績を修めた児童・生徒に対する表彰や、若者を対象とした滋賀県次世代文化賞により若手芸術家の顕彰を行う。	③ーア	滋賀県次世代文化賞 受賞者 H28：2名（音楽、美術） H29：2名（音楽、美術） H30：2名（音楽、美術）	これまでは音楽、美術部門からのみ受賞者が出ており、それ以外の部門の掘り起こしを行う必要がある。事業周知や関係団体との連携によって他分野からも人材を発掘する。

④若手芸術家などの活動情報の収集および発信支援

ア 「滋賀文化のススメ」活用による若手芸術家の情報収集・発信支援

※平成28年度から平成30年度まで

所属名	事業名	事業内容	事業の目的	3年間の取組を踏まえた取組結果 (数値) 記述	今後の課題・事業課題 対応等
文化芸術振興課	滋賀「文化のススメ」の運営	滋賀「文化のススメ」サイトの周知を徹底し、若手芸術家の登録数の増加・充実を図るとともに文化施設や文化団体などへも周知することで芸術家の情報発信の支援を行う。	④ーア	○平成28年度 ページビュー数125,587、芸術家および文化団体の登録数（新規登録数）2 ○平成29年度 ページビュー数120,050、芸術家および文化団体の登録数（新規登録数）7 ○平成30年度 ページビュー数113,679、芸術家および文化団体の登録数（新規登録数）4	SNSの活用が広まり、特に若手芸術家にとって、新規で登録することが少ない。サイトは文化施設等が情報発信の場として活用されている。一方、コンテンツ紹介の部分はライブラリー的にも利用されており、他のサイトには無い貴重な画像や解説があることは特筆に値する。なお、登録システムには前代のプログラムが利用されており、改ざん等の脅威が迫っているが、新プログラムでのサイト構築には多額の費用がかかる。

滋賀県文化振興関連事業における取組結果と課題

2 未来の文化の担い手の育成

重点施策 5 文化活動を支える人材（アートマネージャーなど）の育成・支援

重点施策 5

①文化活動を支える専門人材の育成・支援

ア 文化行政職員や文化施設職員を対象としたアートマネジメント研修の実施

イ 文化活動を支える団体や人材育成を目的とした研修などの実施

ウ 文化を支える人材や団体への活動支援、中間支援機能の充実

エ 滋賀県ヘリテージマネージャーの養成支援（再掲）

※平成28年度から平成30年度まで

所属名	事業名	事業内容	事業の目的	3年間の取組を踏まえた取組結果 (数値) 記述	今後の課題・事業課題 対応等
文化 芸術 振興 課	文化施設管理 運営費（アート マネジメント研 修）	文化活動の企画・運営を マネジメントし、文化・芸 術と地域社会を結びつけ ることができる人材育成の ための研修を行います。	①ーア	<p>個々の専門分野に精通した著名な講師を招き講座を複数 回にわたり展開し人材の育成を図った。</p> <p>平成28年度までは、座学を中心とした単独講座として実施 してきたが、平成29年度からは、事業運営に重点をおいた実 践講座で実施した。</p> <p>平成29年度は、文化ホールとのコラボレーションができ、公立 館同士の繋がりが深まり、各分野の専門家の育成も図れた。</p> <p>平成30年度は、「大学連携」も実現し、「まちづくりとアート」 をテーマに実施することができた</p> <p>「アートマネジメント人材養成講座」 H28年度開催 8～9月 7回 参加・鑑賞者 94人 H29年度開催 9～2月 7回 参加・鑑賞者 240人 H30年度開催10～2月 8回 参加・鑑賞者 150人</p>	<p>平成29・30年度では、従前の座学を踏まえた実践 編としているが参加者は少ない。</p> <p>大学や各団体等との協働連携など工夫を凝らしたき たが双方の主目的の違いが生じる。</p> <p>受講生の質と量の両面での課題があり、カリキュラム構 成や講座内容の見直しの検討が必要である。</p>
文化 芸術 振興 課	滋賀次世代文 化芸術センター 運営助成事業	文化施設・芸術家と学校 等と結び、学校の授業で 文化芸術体験を行うため のコーディネートや、それを サポートする文化ボラン ティアの育成等を行う「滋 賀次世代文化芸術セン ター」に対して助成する。	①ーイ	<p>文化施設・芸術家と学校等と結び、文化芸術体験を行うため の学校の授業をコーディネートした。</p> <p>○平成28年度 210件 ○平成29年度 187件 ○平成30年度 197件</p>	<p>文化芸術の提供者(文化施設や芸術家)と体験活動を 希望する学校現場など、次世代文化芸術支援ネット ワークのつなぎ役・中間支援機関として、これまで培った スキルを用いた、より一層充実した取組の実施が必要と なる。</p>
琵琶 湖博 物館	交流・サービス 事業	自主的・主体的に博物 館活動へ参加する「はし かけ制度」「フィールドレ ポーター制度」の支援、体 験学習プログラムの実施 や講演会・観覧会の開 催、教員研修の取組など 地域や学校などと協働事 業を実施する。	①ーウ	<p>外部からの講座・観覧会などの依頼の窓口を原則として一本 化し、依頼者とよく相談をすることにより、依頼者のニーズを明 確化してよりの確に対応することができるようになった。</p> <p>観覧会・見学会は外部団体との共催が多く、地域の多様な 主体との連携を進めることができた。</p>	<p>はしかけ・フィールドレポーターの活動が多様化してきてい るため、どのような活動の可能性があるかについて、博物 館と登録者との対話によって検討していく必要がある。</p>
文化 財保 護課	ヘリテージマネ ージャー養成講座	地域で文化財の保存・継 承と活用を推進するリー ダーとなる人材育成とし てのヘリテージマネー ジャーの育成を支援する。	①ーエ	<p>滋賀県ヘリテージマネージャー 育成講座終了者数</p> <p>○平成28年度 34人 ○平成29年度 20人 ○平成30年度 20人</p>	<p>今後ますます登録有形文化財等の文化財的価値に配 慮した改修の必要性が増加するため、ひきつづきヘリ テージマネージャーの育成と連携を強化していく。</p>

②文化ボランティアの育成

ア 文化ボランティアなどの拡充および活動の促進 ※重点 7 ①イ, 8 ②アに再掲

イ 若者による文化ボランティアの拡充 ※重点 6 ②ウに再掲

ウ 文化ボランティアの体験研修の充実 ※重点 8 ②イに再掲

※平成28年度から平成30年度まで

所属名	事業名	事業内容	事業の目的	3年間の取組を踏まえた取組結果 (数値) 記述	今後の課題・事業課題 対応等
文化芸術振興課	びわ湖ホール管理運営費	びわ湖ホールにおいて文化ボランティアなどの拡充および活動の促進を図る取組を実施する。	②ーア	<p>・びわ湖ホール劇場サポーターを募集し、劇場サポーターを対象とした研修を行うとともに、サポーター活動の実践を通じて舞台芸術の普及に努めた。</p> <p>○平成28年度 びわ湖ホール劇場サポーター数 97人 ○平成29年度 びわ湖ホール劇場サポーター数 97人 ○平成30年度 びわ湖ホール劇場サポーター数 112人</p> <p>・近江の春びわ湖クラシック音楽祭ボランティアスタッフ ○平成29年度 40人 ○平成30年度 45人</p> <p>・ホールの子事業において、運営スタッフとして「部門研修」に参加した県職員数 ○平成28年度 - 人 (実施なし) ○平成29年度 15人 ○平成30年度 11人</p>	<p>・平成28年度から劇場サポーター制度を見直し、第1期から第21期までの劇場サポーターを対象とした活動を展開することとし、活動内容も充実させた。劇場サポーターの募集を引き続き行い、さらなる人的ネットワークの拡大を図り、舞台芸術の普及に努めていく。</p> <p>・「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」などにおいて、広く公募したボランティアスタッフに一部運営を担ってもらう。</p> <p>・「ホールの子事業」の運営スタッフとして、県職員を「部門研修」等の位置づけで関わってもらう。</p>
琵琶湖博物館	交流・サービス事業	自主的・主体的に博物館活動へ参加する「はしかけ制度」「フィールドレポーター制度」の支援、体験学習プログラムの実施や講演会・観覧会の開催、教員研修の取組など地域や学校などと協働事業を実施する。	②ーア	<p>外部からの講座・観覧会などの依頼の窓口を原則として一本化し、依頼者とよく相談をすることにより、依頼者のニーズを明確化してよりの確に対応することができるようになった。</p> <p>観覧会・見学会は外部団体との共催が多く、地域の多様な主体との連携を進めることができた。</p>	<p>はしかけ・フィールドレポーターの活動が多様化してきているため、どのような活動の可能性があるかについて、博物館と登録者との対話によって検討していく必要がある。</p>
健康福祉政策課	平和祈念館事業	県民の戦争体験を語り継ぎ、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、平和を願う心を育む拠点施設として、資料の収集および展示、戦争体験談の聞き取り調査、さらには学校や地域に向けての平和学習の支援等を行う。	②ーア	<p>児童生徒にもわかりやすく、興味が持てるような展示内容にするよう心掛けているところ。平成28年度から平成30年度までの3年間の来館学習による来館学校数・人数は以下のとおり。</p> <p>○平成28年度 来館学校数47校 来館児童生徒数2,224人 ○平成29年度 来館学校数43校 来館児童生徒数2,466人 ○平成30年度 来館学校数47校 来館児童生徒数2,340人</p>	<p>遠方の学校等、来館が困難な学校の交通費負担軽減を図るため、補助制度を設立（令和元年度より）した。こうした制度を周知するとともに、学校への利用の呼びかけをPRし、遠方の学校やこれまで来館していなかった学校などの来館につなげる。また、各市町教育関係機関にも周知を進めることで制度の理解を広げ、より一層の参加を促す。</p>
文化芸術振興課	近代美術館 近代美術館サポーター	美術館と利用者をつなぐ役割として、作品解説や教育普及活動のスタッフとして活動するボランティア組織を運営する。	②ーア	<p>平成29年度からの休館に伴い、サポーターの募集・育成は休止しているが、休館中に学校や地域で行っているワークショップや出前授業の実施にあたり、これまでのサポーターがスタッフとして活動している。</p>	<p>令和3年度を予定している再開館に向けて、美術館活動の展開におけるボランティアの役割はますます重要になることが想定されるため、若い世代をはじめより多くのボランティアが活動できる育成・運営プログラムや募集方法を検討する必要がある。</p>
生涯学習課	子ども読書ボランティアへの研修事業	子ども読書活動に関わるボランティアを対象に、子どもの読書活動への理解やおはなし会などでの活動のスキルアップ等を目的とした講座を開催する。	②ーア ②ーウ	<p>いずれの講座にも多くの関係者の参加を得て、読書活動への理解や読み聞かせなどのスキルアップを図ることができた。</p> <p>○学校・図書館・ボランティアを結ぶ実践発表会 参加者 H28 66名、H29 55名、H30 44名 ○子ども読書ボランティア・ステップアップ講座 H28（2回）のべ132名、H29（2回）のべ92名、 H30（1回）66名</p>	<p>講座のテーマや開催場所など、引き続き参加者のニーズに沿った講座の開催に努めることが必要である。</p>
文化芸術振興課	滋賀次世代文化芸術センター運営助成事業	文化施設・芸術家と学校等と結び、学校の授業で文化芸術体験を行うためのコーディネートや、それをサポートする文化ボランティアの育成等を行う「滋賀次世代文化芸術センター」に対して助成する。	②ーイ ②ーウ	<p>文化施設・芸術家と学校等と結び、学校の授業で文化芸術体験を行うためのコーディネートをサポートする文化ボランティアを育成した。 (登録ボランティア数) ○平成28年 81人 ○平成29年 58人 ○平成30年 64人</p> <p>センタースタッフを対象とした文化活動体験研修や、高校生が出演者や運営スタッフとして関わった学生文化ボランティア研修を実施した。</p>	

文化 芸術 振興 課	美ココロ・パート ナースhip事業	滋賀次世代文化芸術セ ンターにおいて、通常学級 に通えない子どもたちを対 象に文化芸術体験プログ ラムを実施するとともに、 若手芸術家を「美ココロ・ パートナー」として育成す る。	②ーウ	通常学級に通えない子どもたちを対象に文化施設や芸術家 などと連携した授業を実施し、文化・芸術体験学習の機会を 提供した。これにより、毎年 3 人の若手芸術家を育成した。 (登録パートナー延べ数) ○平成28年 8人 ○平成29年 11人 ○平成30年 14人	これまで育成した芸術家を中心に、新たな人材を巻き 込みながらパートナーを育成する必要がある。
---------------------	----------------------	---	-----	---	---

③教員を対象とした文化研修機会の充実（再掲）

ア 文化・芸術を体験する教員向け研修機会の提供（再掲）

※平成28年度から平成30年度まで

所属 名	事業名	事業内容	事業の 目的	3年間の取組を踏まえた取組結果 (数値) 記述	今後の課題・事業課題 対応等
文化 芸術 振興 課	滋賀次世代文 化芸術センター 運営助成事業	文化施設・芸術家と学校 等と結び、学校の授業で 文化芸術体験を行うため のコーディネートや、それを サポートする文化ボラン ティアの育成等を行う「滋 賀次世代文化芸術セン ター」に対して助成する。	③ーア	芸術と教育の連携を深めるため、美術館や劇場など文化施設 と連携し、教員・講師・スタッフを対象とした研修会を実施し た。 (夏季研修参加人数) ○平成28年 32人 ○平成29年 48人 ○平成30年 61人	
琵琶 湖博 物館	交流・サービス 事業	自主的・主体的に博物 館活動へ参加する「はし かけ制度」「フィールドレ ポーター制度」の支援、体 験学習プログラムの実施 や講演会・観察会の開 催、教員研修の取組など 地域や学校などと協働事 業を実施する。	③ーア	外部からの講座・観察会などの依頼の窓口を原則として一本 化し、依頼者とよく相談をすることにより、依頼者のニーズを明 確化してより的確に対応することができるようになった。 観察会・見学会は外部団体との共催が多く、地域の多様な 主体との連携を進めることができた。	はしかけ・フィールドレポーターの活動が多様化してきてい るため、どのような活動の可能性があるかについて、博物 館と登録者との対話によって検討していく必要がある。
モノづ くり振 興課	陶芸の森事業	伝統文化であり、地場産 業である信楽焼の産地に 位置する陶芸の森におい て、陶芸専門の展覧会 や、国内外の陶芸家を対 象とした滞在型創作研修 「アーティスト・イン・レジデ ンス」、地元陶芸家が作 品を販売する「セラミック・ アート・マーケット」等の事 業を実施する。	③ーア	学校教員が文化・芸術を体験する研修機会を、3年間で 3 回提供した。 <研修機会提供回数> ○平成28年度 1回 ○平成29年度 1回 ○平成30年度 1回	引き続き、学校教員自身が文化・芸術を体験する研修 機会を提供することで、学校教育での陶芸体験の普及 を図る。